

火力プラントにおける電力CALSの適用と運用管理

太田伸一*
百地照雄*
井上葉子*

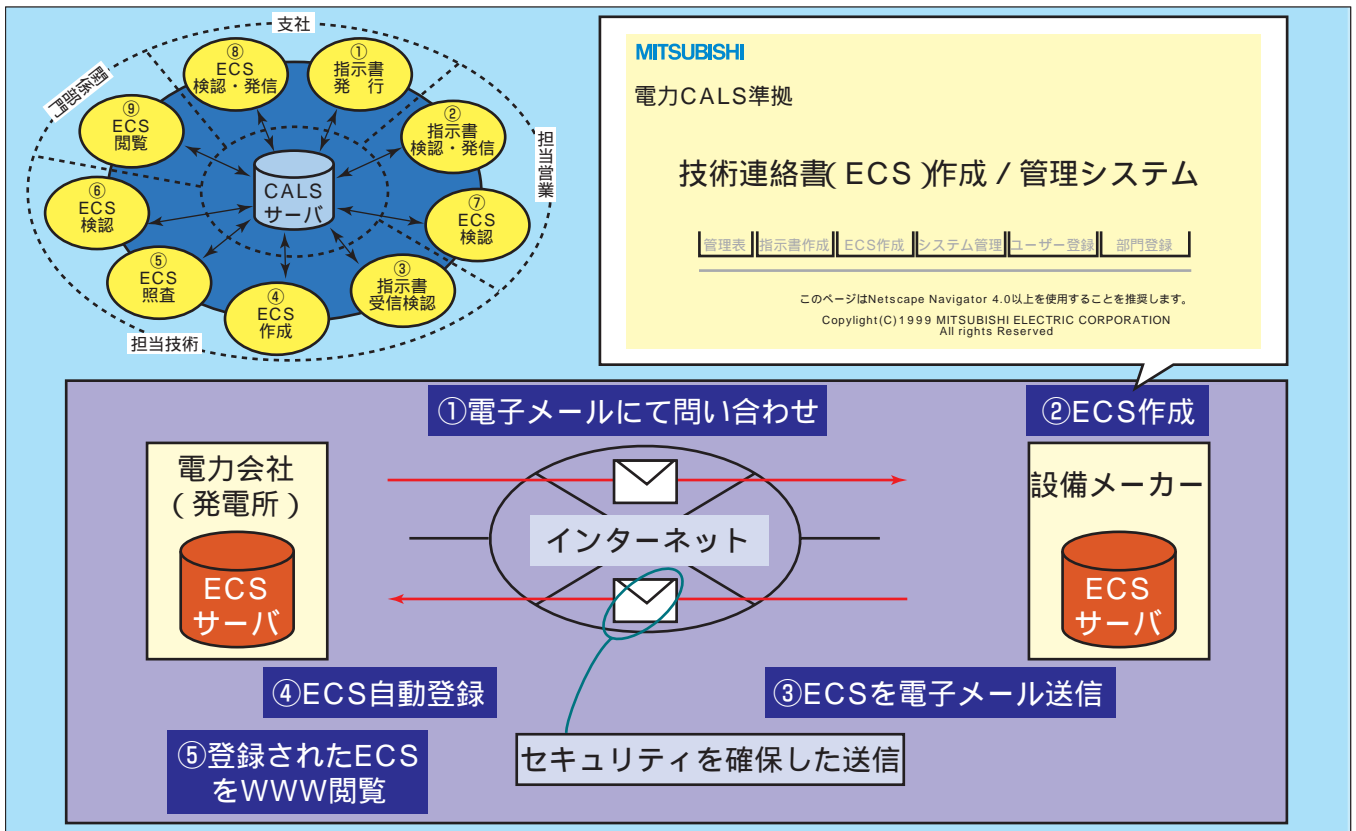
要 旨

電力産業を取り巻く環境は規制緩和と競争拡大による社会情勢の変化の中で日々厳しさを増しており、低価格かつ高品質の製品供給という社会的要求を実現するためには、従来の企業内における業務改善や情報システムの導入による効率化に加え、電力会社、メーカー、その他協力会社を含む企業を越えた業務改善が必要となってきた。

これらに対応するため、電力業界では1995年末にCALS (Commerce at Light Speed : 生産・調達・運用支援統合情報システム)の業種別検討委員会を組織し、火力発電所の保守・運用業務に重点を絞った検討を重ねており、三菱

電機も日本電機工業会(JEMA)のメンバーとしてこれに参画してきた。

今回紹介する内容は、火力発電所の保守・運用業務の中で電力会社とメーカー間で交換する技術連絡書(Engineering Communication Sheet : ECS)を対象として、情報の電子化・共有化、ネットワークを介した情報伝達の迅速化を図ることを目的に電気事業連合会(電事連)とJEMAが中心となって実施した実証試験及び実適用への当社対応についてであり、当社が開発したECS-CALSシステムの概要を中心に活動の経緯、運用管理等について述べる。



技術連絡書 (ECS) の送受信の流れ

図は電力会社とメーカー間での作業フローの概念を示すもので、右上の図は当社が開発したECS作成/管理システム操作時の“タイトル画面”を示す。左上の図は社内における各部門の作業分担とシステムの集中化をイメージ化したものである。